貴方は今日から槍使い！

ざうるすういろう

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

神様の手違いで死んでしまった少年はアニメ、ゲームが好きな普通（？）の少年。そんな彼はある能力を持って魑魅魍魎が跋扈する異世界へと転生するのであった！

という夢を見たのさ

嘘ですごめんなさい、Ｆａｔｅと劣等生のクロスオーバー作品です。初投稿なので酷い点が多々あると思いますが広い御心で許してください！お願いします！

目　次

プロローグ ―――――――――――――― 1
庭には２話（２羽）ニワトリがいる ―――――――― 5
３匹の秋刀魚が３話（サンバ）を踊る ―――――――― 9

プロローグ

???「突然ですが質問です、今から9個の職業を言います。その中で貴方がなりたいと思う職業をひとつ教えて下さい」

は？え？なに？ごめんなさい状況が全く読めないんだけど…何この真っ白空間

ここはどこ？私はダリ？貴女はダリ？

???「それを言うなら、私はだれ？　です。あと私もダリではありません」

失礼噛みましt…ん？今心の中読まなかった？

???「当然です。何故なら私は神ですからね。その程度の事御茶の子さいさいですよ」

（・ω・）ドヤ

うわ…痛い子だ、リアル厨二病なんて初めて見た…後ドヤ顔可愛いですね。

自称神「↑自称はいりません！貴方、初対面の相手に対して中々失礼ですね。後可愛いのは当然です。この姿は貴方の中の理想の女性像を模していますからね…ってそうじゃなくて！最初の質問に答えてくださいよ！」

最初の質問？ってなんだっけ？確か職業がどうとか

神（？）「そうです。今から候補を9個言いますのでその中からひとつ選んでくださいね。では、

1. 剣使い（セイバー）
2. 弓使い（アーチャー）
3. 槍使い（ランサー）
4. 魔術師（キャスター）
5. 暗殺者（アサシン）
6. 騎乗者（ライダー）
7. 狂戦士（バーサーカー）
8. 裁定者（ルーラー）
9. 復讐者（アヴェンジャー）、以上の中からお選び下さい」

質問いいですか？
神（？）「どうぞ」
その職業ってどう考えてもＦａｔｅシリーズのクラスのことですよね？それを職業って…
神（？）「あら？よくご存知ですね。職業と表現したのは貴方が知らない場合に説明しやすいようにするためです」
そうだったんですか。ええまぁ、ゲームはする方でしたし一応アニメはよく見ていましたし…
神（？）「では、それぞれがどの様なものかもご存知ですね？」
はい、知ってます
神（？）「それは良かったです。説明の手間が省けますね。他にご質問は？」
あります。まず、ここはどこで俺はなんでここにいるんでしょう？夢なわけないですよね？
神（？）「あ、まだその説明してませんでしたね。すみません忘れてました。ここは、言うなれば死後の世界で現実世界での貴方は死んでしまいました。それもこちらの手違いで」
は？死んだの？俺？うそん…なして？
神（？）「嘘ではありません。貴方の死因は爆死です」
ば、爆死!?
神（？）「はい、爆死ですそれはもうドカーンと」
そこら辺の記憶ないんですがそれは…
神（？）「思い出さないほうがいいこともあるんですよ」
なに!?そんなに酷いの!?逆に気になってきたんだけど!?
神（？）「貴方にはこれからある世界に転生していただきます。しかし、その世界はあなたが暮らしていた世界とは常識が大きく異なります。そんな世界でも苦労せず生きて行けるように貴方には特典として特殊な能力を持ってあちらの世界に行っていただきます」
今露骨に話題変えましたよね
神（？）「まあそんなことはいいじゃないですか。それよりも先ほどの話理解できましたか？」

まあ、だいたい理解しました。ようはテンプレ的展開なわけですね。それで、選ぶクラスは決まったんですけど貰える能力って具体的にはどんな能力ですか？

神（？）「貴方に与える力は宝具及び武器を条件無視で使える能力です。それも選んだクラスのサーヴァントの宝具全てを貴方に与えます。あと、身体能力向上もあげちゃいます。多少の矛盾点などもあるかもしれませんが、それはもう完全に無視ですね、神的な力でねじ曲げちゃいます」

それかなりチートじゃないですか？近年まれにみるチート能力ですよ!?なんか不安になってきた力　あげるからそれ使って世界の秩序を守れとか言いません？

神（？）「言いませんよそんなこと！貴方に力をあげて転生させることこそが世界の秩序を守るためなのですから。色々あるんですよ運命力とかパワーバランスとか。それで、貴方はどのクラスを選ぶのですか？」

そんなのもちろん決まってる。俺が選ぶクラスは槍使い（ランサー）です

神（？）「ほほう、理由を聞いても？」

俺はアニキことクーフーリンをリスペクトしてるからです！あの人の人柄に惚れました！であれば同　じランサークラスを選ぶのは当然です

神（？）「そうですか。分かりました、では貴方をこれから転生させます。詳しい事は向こうに着いてしかるべき時が来たら説明しますね」

しかるべき時ですか…了解しました。どんな世界に行くのかは教えてくれないのですか？

神（？）「それは、向こうに着いてからのお楽しみです。ただ、貴方の全く知らない世界では無いのでご安心を」

ベビースタート確定で安心できるとでも？

神（？）「それでは、貴方は今日から槍使いです！第２の人生を精一杯楽しんでくださいね！」

また流されたあああああああ!?

庭には2話（2羽）ニワトリがいる

２０９５年４月、桜咲き乱れる春俺は国立魔法大学付属第一高校の校門に来ていた。
え？２話からいきなり過ぎるって？色々あったんだよ…

ーーーーーーーーー

うっ、眩しい…何処だここ…知らない天井だ。
うわ！びっくりした、突然目の前に人の顔が出てきた。
うひゃーめっちゃ美人さんじゃんモデルさんかな？
見つめてたらにっこり笑った
笑った顔も可愛いなぁ。
でも誰なんだろう…とりま俺のコミュスキル発動だな
にこやかに挨拶から始めよう。
「ぶぅーだぁー」
…は!?声が出ないぞ!?何でだ!?
も、もしかして…確認せねば！
…右手左手チェック中…
わ、忘れてた…あの駄女神そういえばベビースタートって言ってたわ…
って事は今目の前で笑いかけてくれてるこのべっぴんさんはおいどんのマミーという事でござるか!?
うはーマザコンになりそうでござる…っとふざけた事考えてたら母親（仮）どっか行っちゃった。
さてと、取り敢えず現状確認でもするか。
声は出るけど言葉にはなっておらず揺りかごの大きさから大体生後４ヶ月くらいかな。そうだとするとまだ首が座ってないから動くことは出来ないな……暇すぎる。

お、母親（仮、もう母親でいいや母親が来たぞ、
「くーちゃんご飯の時間ですよ～」
ふぁっ!?く、くーちゃん!?俺の名前か？
クーフーリンの兄貴の愛称みたいだな。
ん？そういえば今この人ご飯って言ったか？乳幼児が食すものといったらアレしかないよな、うわーまじか…しんど…
ーーーー乳幼児授乳中ーーーー
思ってたよりも恥ずかしいな…
味覚もまだ発達してないから味は分からなかったけど、あれ？
マイマザ～ご飯あげ終わったらどっか行っちゃうの？
遊んでくれないの？
乳幼児をあまりに一人にしない方がいいぞ～
あまり知られてないけど転生物とかで良くある赤子放置は最悪赤ちゃん死んじゃうからやっちゃいけないんだぞ～
あらら、行っちゃった。
まぁ俺普通の赤子じゃないし精神発達面では問題ないと思うけど…これって年相応の反応示さなきゃいけないのかな？
やだな～幼児プレイみたいじゃん、やったことないけど。
ーーーー恥ずかしいのでキンクリーーーー
ーーーー３年後ーーーー
ーー自宅ーー
ようやく普通に喋っても問題ない年齢になった…長かった３年って案外長いのな。
そしてこれまでの生活である程度この世界のことがわかったぞ
まず、俺の名前は宮原久利生《みやばらくりお》
そんでもってこの世界は小説、魔法科高校の劣等生の世界だわ。
あの駄女神め、たしかに俺はこの世界を知ってるけどアニメ知識程度なんだよなぁ…

まぁ良いんだけど。
それより、ようやくある程度の体ができてきたんだ転生特典の確認をしたいんだが、やり方がわからん…。
あの駄女神の言うことが正しいのならそろそろ向こうからアクションがあるはずなんだがしかるべき時はまだなのかな？
（あーあー、聞こえますか～？）
うわっ！吃驚した！だれ!?どこ!?ダリ!?
（まだ引きずりますかそのネタ…私ですよ神ですよ）
なんだ駄女神か…焦った～おばけかと思った
（ほほう、転生させてあげた神に対して駄女神ですか…いい度胸してますねぇ？せっかく転生特典の使い方とか貴方の状態とかを教えに来てあげたというのに）
わー！ごめんなさい、ごめんなさい冗談です！教えて下さい色々！ってなんで!?声に出してないのに…また心の中読んでるんですか…
（まぁ神ですし？それなりの誠意を見せてくれるのであげれば教えてあげるのも吝かではないと言いますか？ん？ほらほら何かあるのでは？）
うっ…も、申し訳ありませんでした女神様
（（ ―ω― ）フッやだよ～っだ！）
イッラァ！う、うぜぇこの駄女神！
（さ、冗談はこのくらいにしてあなたの現状をまず説明しましょうかね。あなたもご存知の通りこの世界には魔法という概念が存在します。）
え、えぇ知ってますよ現代魔法についてある程度は
（それは上々では貴方の潜在能力をざっくり言ってしまうと身体能力以外は最弱、これ以上にしっくりくる言葉はありません）
マジっすか…
（ええ、魔法士としての才能はあるにはあるのですがとても低いです。ですがあくまでこれはこの世界での能力の話、貴方には他には無い特別な力があるはずですよ）

サーヴァントの能力…
（そう、それです。貴方もある程度は感づいているはずですよ、あなたのその能力はこの世界においてはっきり言って異常であると）
まぁ分かっていますよ、その位
（なら良いのですが、因みに身体能力と魔力値、この世界風にいうと想子だね、も聖杯に魔力供給を受け続けているサーヴァント並なので力加減を間違えない様にして下さいね）
遅いよそれ言うの…今迄幾つの揺りかごを破壊してきたと思ってるんだ
（あらら、それはご愁傷様です。では、次に能力の使い方の説明をしましょう）
流しやがったぞ
（貴方ならすぐ適応すると思いますが、能力に関しては使いたい力を想像すればそれが貴方の魔力を使って具現化するという仕組みになっていますので。まぁ実際に使ってみた方が早いでしょう）
そんな簡単に出来るんですか？
（まぁ、少し待ちなさい今力を使っても問題ない空間を作っていますから）
へぇー空間を…はぁ!?空間作ってるんですか!?
（うるさいですね、もう出来てますよ）
もう!?はや!?
（じゃあ、そこの扉を異空間に繋げたので入ってきてください）
ええ…そんな簡単に…
（さぁさぁ、さっさと入っちゃってください）

3匹の秋刀魚が3話（サンバ）を踊る

駄女神が作った空間というのは所謂、主人公がスーパーな野菜星人の漫画に出てくる精○と時の間みたいな感じだった。
そこで俺は力の特訓と称して駄女神の作ったモンスターや現代兵器とひたすらに戦わさせられたんだけどさ…
なんだよあのモンスター、姿は消えるわ光速で移動するわと思ったら即死魔法撃ってくるわで倒すのにめっちゃ時間かかった…スカサハ師匠の宝具でも死なないとかなんなん、まぁおかげで気配察知と気配遮断と対魔力の能力値あがったけどさ。
3歳児に無茶させすぎだろ！何回も死んだわ！その度に甦させられたけどさ！普通にトラウマもんだよ、あんなの！
まぁそんなこんな（説明放棄）で駄女神の作った空間で修行（という名の虐殺）を堪能した俺はなんやかんや（説明放棄ｐａｒｔ２）あってめでたく第一高校へと入学することが出来たのであった！（２話冒頭に戻る）
1時間前行動は流石に早すぎたかな…人が少ないぞい。
さしてやることもなく校門近くの木の下で寝転がっていると男女の言い合う声が聞こえてきた。
声のする方に視線を送るとそこには長身で整った顔立ちの男性と長髪で見目麗しい女性が何やら言い合いをしていた。
女性「何故お兄様が補欠なのですか!?入試だってトップの成績だったじゃありませんか!!」
男性「ここは魔法科高校なんだペーパーテストより実技が優先されるのは当然だ。俺の実技能力じゃ二科生とはいえよく合格できたと思っているのだがね」
女性「勉学も体術もお兄様に勝てる者などおりませんのに！魔法だって本当なら！」
男性「深雪！それは口にしても仕方が無いことなんだ」
深雪「も、申し訳ございません」
男性「それにな深雪…俺は楽しみなんだ。可愛い妹の晴れ姿をこの

ダメな兄貴に見せてくれないか？」
深雪「お、お兄様はダメな兄貴なんかじゃありません！――ですがわかりました。わがままを言って申し訳ありませんでした」
男性「行っといで、答辞の打ち合わせ時間だろ？」
深雪「はい！行ってまいります！見ていてくださいねお兄様」
男性「ああ」
……うわぁ何だあの甘ったるい空間…胸焼けしそう…マスター、エスプレッソおかわり…あの二人原作主人公の司馬兄妹だよな
うっひゃー深雪ちゃん可愛いー達也くんイケメーン
なんて巫山戯てたらさっきの男性（司波達也）がこちらに近づいてきた。
達也「ここのベンチ座ってもいいか？」
久利生「いいぞ、俺はここで寝転がってるだけだからな」
達也「俺は1年の司波達也だ。よろしく」
久利生「俺は同じく1年の宮原久利生だ。よろしくな司波」
達也「達也でいい。よろしくな宮原」
久利生「俺も久利生でいいぞ。さっき達也と一緒にいたのは妹さんか？」
達也「ああ、深雪という名前だ」
久利生「お前ら仲良すぎじゃないか？見ていて恋人かと思ったぞ」
達也「おいおい、俺達は血の繋がった実の兄妹だぞ」
久利生「ありゃ兄妹のノリじゃねぇって…それにしてもお前色々トラブルに愛されそうな雰囲気してんな」
達也「それはどういう意味だ？」
久利生「いやなに、なんとなくそう思っただけだよ」
だってねぇ…そろそろ来るんじゃねあの小悪魔さん
???「新入生ですね？そろそろ会場に向かった方がいいですよ」
ほら、やっぱり来たよ…